

Q

運営形態の違いによる保育サービスの違いは

A

市で基準を決め対応しており、差異はない



こま くみ子
五間くみ子



映像は
こちらから

公立学童保育室が全小学校に整備される。急増する保育ニーズに対応するための方策であったが、それにより、指定管理と直営という運営形態をとることとなった。運営形態の相違による利用者に対してのサービスに差は生じていないか。

指定管理といっても、公立学童については、他の公共施設と異なり、利用料は市の収入とし、保育内容は市で基準を決めている。直営とほぼ同様である。

令和3年度に指定管理が4法人となるが、法人間において同等のサービスを提供するための方策は。

業務内容について、業務基準書、基本協定書を定めている。実施に当たっては、市が、事業計画を事前に確認し、事後は報告書の提出を求め、年一回のモニタリングで立ち入り等している。



運営形態は、将来統一するのか。統一ではなく、今後、入室児童数の増加や使用する学校施設等の教室の状況を考慮し、どちらの運営としていくかを判断する。

同時に3人通わせる経済負担は大きいと思うが、何世帯いるのか。8世帯である。

多子世帯の子育て支援という観点で、兄弟利用の減免制度を導入してはどうか。

民間学童の特徴の一つでもあるので、公立学童での導入は難しい。

Q

アンダーパスの工事は57億円に収まるのか

A

工法変更に伴い増額になる見込みである



おやじ 村川 徳浩
ミルク 村川 徳浩



映像は
こちらから

原郷上野台線アンダーパスの汚水管・雨水管切り直し工事で、工期の延長・工法の変更が必要理由は。掘削作業において土砂の崩壊が著しく、作業上の安全確保が現状では困難であるため。

工事を別の工法に変更した場合、市が増額の費用を負担する根拠は。

土砂崩れの要因が施工業者の問題ではなく、予期しえなかった土質条件によるものであったため、「設計変更ガイドライン」の中の設計変更が可能なケースに該当するため。

当初20億円とされたアンダーパスの工事は、話が進むに従い48億円、57億円と増額していった。最終的な工事は、57億円に収まるのか。

本体工事には、より強固な鋼矢板工法を採用しているため影響は無いと考えるが、汚水管・雨水管の切り直し工事の工法変更に伴い増額になる見込みである。



J R本体工事による通行止め位置図

隣接する畑にひび割れが入り、道路側溝の沈下や電柱が傾くなどの状況が生じた。住民に意見を聞き、切り直し工事の工法変更ではなく、アンダーパスをオーバーパスに変更し、日照権やプライバシー対策をした方が、市の負担は減るのではないか。

アンダーパスは、平成9年の陳情に始まり地元説明会での意見交換等による市民との合意形成を踏まえ都市計画決定の変更手続きを経て現在の計画になっている。JRで進める本体工事も支障物件の移設等を進めているため、オーバーパスへの変更は不可能である。

Q

宅建業者を介した区画整理地の販売促進を提案する

A

民間企業のノウハウを研究し、販売促進に努めていく



いま けいいちろう
今井慶一郎



映像は
こちらから

区画整理地のスムーズな販売やコストの節減に繋げていくため、地元不動産業者を介した販売促進に取り組んでみてはどうか。

市としては、これまでも紹介料要綱を定める等して販売に取り組んできたが、努力不足も否めない部分はあった。民間企業のノウハウは大事と思うので、提案内容を研究し、今後、販売促進に努めていきたい。

区画線の修繕の効率化を求める

道路掘削等の実施時に区画線の汚破損等の修繕を同時に行うことで時間とコストの節約に繋がると思う。特にスクールゾーンについては気を遣ってほしいと思うが。

市として、現在は工事規模を大きくして修繕の効率化を図っているが、スクールゾーンについては教育委員会等と協議を行い、優先的な整備も考えていきたい。



不動産業者を介した販売促進を！

本市独自のアプリがある

市民サービスをパッケージ化した総合窓口的な本市独自のアプリがあると良いと考えるが。

市民の方のニーズを分析し、外部の知見等もお借りしながら、プッシュ通知なども利用できるアプリについて、本市独自のものも含め研究と検討をしっかりと行ってきたい。

Q

アグリテック事業に農業者の関心を高めるべきでは

A

さらなる農業者への周知や連携に努めていく



しげる ばば 茂
ばば 馬場 茂



映像は
こちらから

「豊かな農業、儲かる農業都市」の実現を目指してアグリテック事業に取り組んでいるが、農業者の関心をもっと高めていくべきと思うが。

広報ふかや、JAや農産物直売所などでチラシやポスターの掲示、現在進んでいる実証実験なども周知していく。

農業課題の解決に向けデータベースを創設するところがあるが、現状はどうなっているのか。

令和2年6月に農業者へのアンケートを実施。現在農業者160名のデータを整備運用している。

「農業王国、ふかやマルシェ」などのイベント実施計画は。

来年度も6月、9月、12月、3月の4回を計画している。その他に商工関係団体やベジタブルテーマパークふかや関係のマルシェを実施し、毎月何らかのイベントが市役所庁舎で開催される状況を創っていく。



縦型水耕栽培装置

特産物のPRについては都内の自治体と連携し、積極的にイベントなどに参加し認知を図るとあるが、今後の予定はどうなっているのか。

昨年12月には東京都豊島区の「としまみどりの防災公園」で開催された「イケサンパークファーマーズマーケット」で、本市の特産物を生産者が直接販売することにより、都内の消費者に安全安心な農産物をPRでき、多くの特産品を販売することができた。これから定期的に季節ごとの特産品をPRできるイベントと捉え、本市の特産品の認知度の向上を図っていく。